

厚生労働科学研究費補助金（認知症政策研究事業）  
総括研究報告書

人工知能を活用した行動・心理症状の予防と早期発見、適切な対応方法を提案する認知症  
対応支援システムの開発と導入プログラムに関する研究

研究代表者 小川朝生 国立研究開発法人国立がん研究センター  
先端医療開発センター精神腫瘍学開発分野 分野長

**研究要旨** 本研究の目的は、全国の認知症ケアチーム・緩和ケアチームによる認知症高齢者への評価・対応を学習モデルとした人工知能を開発し、有効性の検証された教育プログラムと安全な運用プログラムとあわせて検証・実装することにより、病院を中心とする看護・介護の現場での認知機能の低下やせん妄の予防・早期発見、行動心理症状への適切な対応方法を確立する点にある。上記目標を達成するために、本年度は急性期医療における認知症対応の実態調査、教育研修の効果の検討をすすめながら、AI システムの開発を継続し、その可能性を検証した。今後、AI システムを用いたせん妄の発症予測システムの開発を進める予定である。

**研究分担者氏名・所属研究機関名及び  
所属研究機関における職名**

小川朝生	国立がん研究センター先端医療 開発センター精神腫瘍学開発分 野 分野長
平井 啓	大阪大学大学院人間科学研究科 准教授
谷向 仁	京都大学大学院医学研究科 准教授
高橋 晶	筑波大学医学医療系災害地域精 神医学 准教授
中西三春	東北大学医学系研究科保健学専 攻 精神看護学分野 准教授
井上真一郎	岡山大学大学病院 助教
上村恵一	国家公務員共済組合連合会 斗南病院 精神科 科長
深堀浩樹	慶應義塾大学看護医療学部 教授
榎戸正則	国立がん研究センター東病院 精神腫瘍科 医員
竹下修由	国立がん研究センター東病院 (臨床研究支援部門 機器開発 推進部) 機器開発推進室 室長
奥村泰之	公益財団法人 東京都医学総合 研究所 精神行動医学研究分野 心の健康プロジェクト 主席研 究員

**A. 研究目的**

本研究の目的は、全国の認知症ケアチーム・緩和ケアチームによる認知症高齢者への評価・対応を学習モデルとした人工知能を開発し、有効性の検証された教育プログラムと安全な運用プログラムとあわせて検証・実装することにより、病院を中心とする看護・介護の現場での認知機能の低下やせん妄の予防・早期発見、行動心理症状への適切な対応方法を確立する点にある。

認知症高齢者の多くは、身体的問題を持ちつつ過している。そのため、認知機能の低下や行動心理症状の評価・対応を行う上で、身体疾患やせん妄、痛み等の身体的苦痛、薬剤を含めた評価が必要である。しかし、包括的な評価と判断は臨床経験に基づく個別判断が中心で、手法が確立していない現状がある。後期高齢者の増加を迎え、認知症高齢者の行動的な変化と共に、身体的な治療や身体症状の変化をとらえ、精神症状や薬物とあわせて評価判断する専門的知識と臨床経験の普及が緊急の課題である。

わが国では、認知症施策推進大綱において、認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供（循環型の仕組み）体制の構築を目標に掲げ認知症ケアチームの設置を進めている。しかし、人材・医療経済的な面での対応に限界がある。本研究は、人材・医療経済的な面

での限界を補い、一般病院における認知症対応力の向上に資することを目指している。

## B. 研究方法

### 1. 認知症ケアチーム・病棟看護師に対するAI支援システムの開発

#### 1) 認知症の人に対する安全で効果的な看護手法の開発

2020年度に引き続き、看護学・医学・法学の研究者からなる学際的研究チームを構築した。法情報総合データベースである D1-law.com を用いて、収集した身体拘束について争われた裁判例（精神科を除く）についての質的内容分析、身体拘束に係わる判例について検討した医学論文について文献検討を継続した。

#### 2) 技術導入に対する医療従事者と当事者・家族の認識の比較

日本、オランダ、ドイツ、スイス、イスラエル、米国の6か国による国際共同研究を実施した。対象は医師、当事者、家族が1か国につき各50名と設定した。

調査が企画された2019年の段階では、調査員の訪問面接により、動画資料と質問紙を併用した聞き取り調査を行うことを想定した。

#### 3) 一般病院における認知症対応の実態把握

認知症ケアチームを全国から10-20チーム程度募って、その症状と対応（身体症状への対応含めて）についてのデータ作りを行った。

データを集積するための基礎的データの集積を行った。

#### 4) AI支援システムの開発

認知症の人の一般診療場面における身体症状・精神症状評価とそれに対応した介入・支援とその結果を包括的に収集し、機械学習に向けた症例データベースを構築し、DPCデータ等と診療記録を組み合わせ、BPSD、せん妄の予測が可能か、技術開発とともに探索的に検討した。

せん妄のリスクチェックならびに入院後のせん妄の症状の評価の有無が記録された入院患者の診療録、DPCデータから、以下の項目情報を抽出した。

#### 2. AIシステム支援を導入した一般病棟での認知症対応プログラムの試行

AI支援システムと、教育プログラムを連携させ、効果的なケアを実践するための運用プログラムを開発しその有効性を検討する。

開発済である認知症教育プログラムを受講した看護師194名を対象に日本語版身体抑制認識尺度を行った。

#### 3. 行動科学に基づく効果的な認知症ケア教育プログラムの開発

意思決定支援における有効な手法について、意思決定の可否に加え、意思決定の結果、根治を選択するのか・現在の生活維持を選択するのかといった決定の種類に資するような支援について解析を加えた。

#### （倫理面への配慮）

本研究のプロトコールは、倫理審査委員会の審査を受け、研究内容の妥当性、人権および利益の保護の取り扱い、対策、措置方法について承認を受けることとする。インフォームド・コンセントには十分に配慮し、参加もしくは不参加による不利益は生じないことや研究への参加は自由意思に基づくこと、参加の意思はいつでも撤回可能であること、プライバシーを含む情報は厳重に保護されることを明記し、書面を用いて協力者に説明し、書面にて同意を得る。

本研究では、認知機能障害のある患者も対象としており、研究参加のインフォームド・コンセントに際して十分な同意能力がない場面が生じ得る可能性がある。しかし、これらの患者を本研究から除外することは、認知機能障害をもたない患者のみの登録となるなど偏りが生じ、臨床に沿った意義や検討が難しくなる。一方、本研究における介入は通常診療ですでに提供されており、予測される有害事象として身体的問題が生じる可能性はないと考えられる。

以上の理由により、本研究に対する患者の理解が不十分と研究者が判断した時は、その場合、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に則り、代諾者から同意を得て実施する。代諾者からインフォームド・コンセントを受けた場合であっても、調査期間中に本人に説明する機会を持ち、インフォームド・コンセントならびにアセントを得よう努める。

## C. 研究結果

### 1. 認知症ケアチーム・病棟看護師に対するAI支援システムの開発

#### 1) 認知症の人に対する安全で効果的な看護手法の開発

患者・家族の主張、病院・施設の主張、裁判所の判断についての概念が抽出され、裁判例間での比較を行うための表を作成した。

#### 2) 技術導入に対する医療従事者と当事者・家族の認識の比較

オランダ、米国でプロトコルの倫理審査が行われ、承認が得られた。倫理審査での指摘事項をふまえて英語版の調査票が修正されたため、昨年度に作成した日本語版の見直しを行い、最終確定した。また当事者への調査説明に使用する動画の日本語版を作成するため、確定した日本語版ナレーションに沿って日本人による音声の録音を実施し、動画の日本語版を完成させた。

日本での倫理審査を申請し、2022年1月に継続審査の判断がなされた。委員会のコメントに沿って修正したプロトコルで再審査を受け、2022年2月22日に承認を得た。医療従事者調査の対象候補者について、研究班の機縁によりリクルートを開始した。

#### 3) 一般病院における認知症対応の実態把握

日本総合病院精神医学会認知症委員会を通じて、今後、会員向けの認知症ケアチームへのアンケートを作成し、それを配布回収した。69病院に配布し、回答を得たのは、36病院であった。回収率は52.2%であった。

認知症ケアチームにおいて困難な事例に関して、明確になった点は困難な症状として調整困難なせん妄、幻覚、妄想、易怒性、不穏、BPSD、暴力、暴言、調整困難な不眠、病識欠如・病状理解がない、食欲低下があった。

特に重要な項目としてせん妄が考えられる。急性期病院の認知症ベストプラクティスの実施、入院時のアセスメントの中で、せん妄のリスク評価において、入院中は時間を定めてせん妄のモニタリングをしている病院がかなり多かったが、そうでない病院も存在した。

せん妄の予防・治療を含めた対応プログラムである DELTA (DELirium Team Approach) プログラムにおいても、今までの「せん妄になったらどうしようもない」というところから、「せん妄は適切なアセスメントとケアをチームで提供することにより、予防できる」ことが示されている。せん妄のアセスメントをより強化する必要性が認められた。

#### 4) AI支援システムの開発

患者の基本データとテンプレートのデータを使用し、ランダムフォレストを用いてモデルの作成をおこなった。テストデータで評価した結果、正確度 82.3%、感度 79.6% を達成した。

### 2. AIシステム支援を導入した一般病棟での認知症対応プログラムの試行

プログラム受講者 194名の日本語版身体抑制認識尺度の総得点は、36.7点であり先行研究における一般病棟の看護師平均得点 52.5点よりも低い(身体拘束をしない傾向にある)ことが推測された。

### 3. 行動科学に基づく効果的な認知症ケア教育プログラムの開発

採択したモデルでは、「生活維持」と同じく、「根治」でも、「a\_1 乳がん」が大きな影響を与えていることがわかった。乳がんであれば、ほとんどの人が根治を選択する。それ以外のがんの場合、次に「根治」の意思決定に影響を与えるのは、「nd\_2a 看護師による、治療方針・目的の明確化」であった。看護師による介入があり、続いて分岐のポイントとなるのは「nd\_6a 心配や懸念の確認」である。ここで心配や懸念が確認されると、「d\_4b 医師から、治療のメリット・デメリットの説明」でさらに分岐し、説明を受ければ根治を、受けていなければ根治以外の意思決定となった。第2の分岐点である、看護師による治療方針の明確化が行われていない場合、「nd\_2b 治療に関する理解の確認」が分岐点となり、確認があれば根治の決定となる確率が高い。確認がない場合は、「nd\_3c 看護師によるセルフケアの把握」

が分岐となり、把握できれば根治を、できなければ根治以外の意思決定が確認された。

#### D. 考察

本年度は、わが国の急性医療における認知症対応の実態把握を DPC データからすすめるのとあわせて、現状把握の方向性を専門家パネルで検討した。DPC データより、認知症を有する患者は、認知症を有しない患者と比較して、退院時 ADL が有意に低いこと、その背景に身体拘束も一因であることが明らかとなり、急性期医療において ADL の低下を防ぐための介入を開発する必要性が高いことが示唆された。

あわせて、認知症と併発することの多いせん妄に対する介入を進展させるために、AI システムを用いたせん妄発症予測が可能かどうかの検討を開始した。

AI システムを含めて、最終的には教育をあわせた臨床介入により診療の質の向上を図る必要がある。わが国においては認知症ケアに関する教育効果で確立したものがなかった。しかし、われわれの開発した教育プログラムは、3 時間の短時間介入ながら、3 ヶ月後にも有意な知識の増加と自信の増加を認めた。今回、身体拘束に関する認識においても変化を確認でき、今後アウトカムへの影響についても検討を進める予定である。

教育プログラムの新規開発では、生活維持という意思決定にどのような変数が関連するのかについては、看護師、医師双方の関わりが抽出された。看護師は今後の治療の見通しを説明することといった今後の生活をイメージし、将来展望を描いていく支援があると、生活維持の意思決定に影響があることがわかる。これに対し、医師は「服薬の自己管理ができるかの確認」が影響しており、患者自身の現状を理解し、それを基盤にその先の生活を描いていく支援が重要であることが示唆された。また、生活維持の意思決定に関しては高齢（70 歳以上）であるかどうかにも影響があることが示され、意思決定の困難さを把握した上での支援が必要であると考えられる。

一方、根治の意思決定に関しては、とくに看護師の支援が、影響要因として多く抽出された。治療方針の明確化や、理解の確認、患者の心配・懸念の把握など、根治を目指す過程でのきめ細やかな支援が求められる。また、医師は、予後の説明を行うことが根治の意思

決定に影響を及ぼしており、治療そのものへの理解とともに、展望を持たせることが重要であることが明らかとなった。

#### E. 結論

本年度は急性期医療における認知症対応の実態把握をすすめながら、AI システムの応用可能性、臨床介入の効果検証を行った。急性期医療における認知症ケアの向上には、AI システムに加えて、身体拘束や意思決定支援等の倫理的な教育プログラムを含む必要性が確認された。

#### F. 健康危険情報

特記すべきことなし。

#### G. 研究発表

論文発表（英語論文）

1. Okuyama T, Yoshiuchi K, Ogawa A, Iwase S, Yokomichi N, Sakashita A, Tagami K, Uemura K, Nakahara R, Akechi T. Current Pharmacotherapy Does Not Improve Severity of Hypoactive Delirium in Patients with Advanced Cancer: Pharmacological Audit Study of Safety and Efficacy in Real World (Phase-R). *The Oncologist*. 2019. 24:e574-e582
2. Kaibori M, Nagashima F, Ogawa A, et al. Resection versus radiofrequency ablation for hepatocellular carcinoma in elderly patients in a Japanese nationwide cohort. *Annals of Surgery*. 2019:in press.
3. Shibayama O, Yoshiuchi K, Inagaki M, Matsuoka Y, Yoshikawa E, Sugawara Y, et al. Long-term influence of adjuvant breast radiotherapy on cognitive function in breast cancer patients treated with conservation therapy. *Int J Clin Oncol*. 2019;24(1):68-77.
4. Mori M, Shimizu C, Ogawa A, Okusaka T, Yoshida S, Morita T. What determines the timing of discussions on forgoing anticancer treatment? A national survey of medical

- oncologists. Supportive Care in Cancer. 2019;27(4):1375–82.
5. Mizutani T, Nakamura K, Fukuda H, Ogawa A, Hamaguchi T, Nagashima F. Geriatric Research Policy: Japan Clinical Oncology Group (JCOG) policy. Japanese journal of clinical oncology. 2019;49(10):901–10.
  6. Hirooka K, Fukahori H, Taku K, Izawa S, Ogawa A. Posttraumatic growth in bereaved family members of patients with cancer: a qualitative analysis. Supportive Care in Cancer. 2019;27(4):1417–24.
  7. Nakanishi M, Ogawa A, et al. Availability of home palliative care services and dying at home in conditions needing palliative care: A population-based death certificate study. Palliative Medicine. 2019. inpress.
  8. Matsuda Y, Maeda I, Morita T, Yamauchi T, Sakashita A, Watanabe H, Ogawa A, et al. Reversibility of delirium in ill-hospitalized cancer patients: Does underlying etiology matter? Cancer Medicine. 2020;9(1):19–26.
  9. Hirai K, Ohtake F, Kudo T, Ito T, Sasaki S, Yamazaki G, Eguchi Y. (2020) Effect of different types of messages on readiness to indicate willingness to register for organ donation during driver's license renewal in Japan, Transplantation. DOI: 10.1097/TP.0000000000003181.
  10. Génereux M, Schluter PJ, Takahashi S, Usami S, Mashino S, Kayano R, Kim Y. Psychosocial Management Before, During, and After Emergencies and Disasters—Results from the Kobe Expert Meeting. Int J Environ Res Public Health. 2019 Apr 12;16(8). pii: E1309. doi: 10.3390/ijerph16081309. PubMed PMID:31013679; PubMed Central PMCID: PMC6518049.
  11. Komuro H, Shigemura J, Uchino S, Takahashi S, Nagamine M, Tanichi M, Saito T, Toda H, Kurosawa M, Kubota K, Misumi T, Takahashi S, Nomura S, Shimizu K, Yoshino A, Tanigawa T; Fukushima NEWS Project Collaborators. Longitudinal Factors Associated With Increased Alcohol and Tobacco Use in Fukushima Nuclear Power Plant Workers 32 Months After the Nuclear Disaster: The Fukushima News Project Study. J Occup Environ Med. 2019 Jan;61(1):69–74. doi:10.1097/JOM.0000000000001483. PubMed PMID: 30335679.
  12. Takahashi S, Takagi Y, Fukuo Y, Arai T, Watari M, Tachikawa H. Acute Mental Health Needs Duration during Major Disasters: A Phenomenological Experience of Disaster Psychiatric Assistance Teams (DPATs) in Japan. Int J Environ Res Public Health. 2020 Feb 27;17(5). pii: E1530. doi:10.3390/ijerph17051530.
  13. Tomotaki A, Fukahori H, et al. Exploring sociodemographic factors related to practice, attitude, knowledge, and skills concerning evidence-based practice in clinical nursing. Jpn J Nurs Sci. 2020;17(1):e12260.
  14. Okumura-Hiroshige A, Fukahori H, et al. Effect of an end-of-life gerontological nursing education programme on the attitudes and knowledge of clinical nurses: A non-randomised controlled trial. Int J Older People Nurs. 2020:e12309.
  15. Nishikawa Y, Fukahori H, et al. Advance care planning for adults with heart failure. Cochrane Database Syst Rev. 2020;2:CD013022.
  16. Nasu K, Fukahori H, et al. Rebuilding and guiding a care community: A grounded theory of end-of-life nursing care practice in long-term care settings. J Adv Nurs. 2020;76(4):1009–18.
  17. Hirooka K, Nakanishi M, Fukahori H, et al. Impact of dementia on quality of death among cancer patients: An observational study of home palliative care users. Geriatr Gerontol Int. 2020.

18. Higuchi A, Fukahori H, et al. Absence of Relatives Impairs the Approach of Nurses to Cardiopulmonary Resuscitation in Non-Cancer Elderly Patients without a Do-Not-Attempt-Resuscitation Order: A Vignette-Based Questionnaire Study. *Tohoku J Exp Med.* 2020;250(1):71-8.
19. Okumura-Hiroshige A, Fukahori H, et al. Developing a Measure of End-of-Life Care Nursing Knowledge for Japanese Geriatric Nurses. *J Hosp Palliat Nurs.* 2019;21(4):E1-E9.
20. Nasu K, Fukahori H, et al. End-of-life nursing care practice in long-term care settings for older adults: A qualitative systematic review. *Int J Nurs Pract.* 2019:e12771.
21. Nakazawa Y, Takeuchi E, Miyasita M, Sato K, Ogawa A, Kinoshita H, Kizawa Y, Morita T, Kato M. A Population-Based Mortality Follow-Back Survey Evaluating Good Death for Cancer and Noncancer Patients: A Randomized Feasibility Study. *Journal of Pain and Symptom Management.* 2021;61(1):42-53. e2.
22. Nakanishi M, Ogawa A, Nishida A. Availability of home palliative care services and dying at home in conditions needing palliative care: A population-based death certificate study. *Palliative Medicine.* 2020;34(4):504-12.
23. Matsuda Y, Maeda I, Morita T, Yamauchi T, Sakashita A, Watanabe H, Ogawa A, et al. Reversibility of delirium in Ill-hospitalized cancer patients: Does underlying etiology matter? *Cancer Medicine.* 2020;9(1):19-26.
24. Maeda I, Ogawa A, Yoshiuchi K, Akechi T, Morita T, Oyamada S, et al. Safety and effectiveness of antipsychotic medication for delirium in patients with advanced cancer: A large-scale multicenter prospective observational study in real-world palliative care settings. *Gen Hosp Psychiatry.* 2020;67:35-41.
25. Katayama K, Ishikawa D, Miyagi Y, Takemiya S, Okamoto N, Ogawa A. Qualitative analysis of cancer telephone consultations: Differences in the counseling needs of Japanese men and women. *Patient Educ Couns.* 2020;103(2020):2555-5264.
26. Hashiguchi Y, Muro K, Saito Y, Ito Y, Ajioka Y, Hamaguchi T, Ogawa A, et al. Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum (JSCCR) guidelines 2019 for the treatment of colorectal cancer. *International Journal of Clinical Oncology.* 2020;25(1):1-42.
27. Tomoko Matsui, Kei Hirai, Yasuyuki Gondo, Shinichi Sato: Understanding help-seeking behavior in relation to psychosocial support services among Japanese cancer patients. *Japanese Journal of Clinical Oncology,* 2020. vol50(10), 1175-1181.
28. Hiroyoshi Adachi, Asayo Yamamura, Nanako Nakamura-Taira, Hitoshi Tanimukai, Ryohei Fujino, Takashi Kudo, Kei Hirai. Factors that influence psychiatric help-seeking behavior in Japanese university students. *Japanese Asian Journal of Psychiatry.* 2020. June:51.
29. Tomoko Matsui, Kei Hirai, Masako Shokoji, Naoko Kanai, Arika Yoshizaki, Naoko Wada, Naoshi Ito, Madoka Tokuyama : Problems, goals and solutions reported by cancer patients participating in group problem-solving therapy. *Japanese Journal of Clinical Oncology.* 2019. vol.49(3), 245-256.
30. Morimura N, Mizobata Y, Sugita M, Takeda S, Kiyozumi T, Shoko T, Inoue Y, Otomo Y, Sakurai A, Koido Y, Tanabe S, Okumura T, Yamasawa F, Tanaka H, Kinoshi T, Kaku K, Matsuda K, Kitamura N, Hayakawa T, Kuroda Y, Kuroki Y, Sasaki J, Oda J, Inokuchi M, Kakuta T, Arai S, Sato N, Matsuura H, Nozawa M, Osamura T, Yamashita K, Okudera H, Kawana A, Koshinaga T, Hirano S, Sugawara E, Kamata M, Tajiri Y, Kohno M, Suzuki M, Nakase

- H, Suehiro E, Yamase H, Otake H, Morisaki H, Ozawa A, Takahashi S, Otsuka K, Harikae K, Kishi K, Mizuno H, Nakajima H, Ueta H, Nagayama M, Kikuchi M, Yokota H, Shimazu T, Yukioka T; Joint Committee of the Academic Consortium on Emergency Medical Services, Disaster Medical Response Plan during the Tokyo Olympic and Paralympic Games in 2020 (AC2020). *Medicine at mass gatherings: current progress of preparedness of emergency medical services and disaster medical response during 2020 Tokyo Olympic and Paralympic Games from the perspective of the Academic Consortium (AC2020)*. *Acute Med Surg*. 2021 Feb 2;8(1):e626. doi: 10.1002/ams2.626. PMID: 33552526; PMCID: PMC7852170.
31. Midorikawa H, Aiba M, Lebowitz A, Taguchi T, Shiratori Y, Ogawa T, Takahashi A, Takahashi S, Nemoto K, Arai T, Tachikawa H. Confirming validity of The Fear of COVID-19 Scale in Japanese with a nationwide large-scale sample. *PLoS One*. 2021 Feb 10;16(2):e0246840. doi: 10.1371/journal.pone.0246840. PMID: 33566868.
  32. Shiratori Y, Tachikawa H, Nemoto K, Ide M, Sodeyama N, Tamura M, Takahashi S, Hori T and Arai T. Visualizing the Process of Disaster Mental Health Services in the Joso Flood by Network Analyses of Emails. *Tohoku J. Exp. Med.*, 252, 121-131, 2020.
  33. Takahashi S, Manaka K, Hori T, Arai T, Tachikawa H. An Experience of the Ibaraki Disaster Psychiatric Assistance Team on the Diamond Princess Cruise Ship: Mental Health Issues Induced by COVID-19. *Disaster Med Public Health Prep*. 2020 Aug 12:1-2. doi: 10.1017/dmp.2020.305. Epub ahead of print. PMID: 32782043.
  34. Takahashi S, Takagi Y, Fukuo Y, Arai T, Watari M, Tachikawa H. Acute Mental Health Needs Duration during Major Disasters: A Phenomenological Experience of Disaster Psychiatric Assistance Teams (DPATs) in Japan. *Int J Environ Res Public Health*. 2020 Feb 27;17(5). pii: E1530. doi:10.3390/ijerph17051530.
  35. Génereux M, Schluter PJ, Takahashi S, Usami S, Mashino S, Kayano R, Kim Y. Psychosocial Management Before, During, and After Emergencies and Disasters—Results from the Kobe Expert Meeting. *Int J Environ Res Public Health*. 2019 Apr 12;16(8). pii: E1309. doi: 10.3390/ijerph16081309. PubMed PMID:31013679; PubMed Central PMCID: PMC6518049.
  36. Komuro H, Shigemura J, Uchino S, Takahashi S, Nagamine M, Tanichi M, Saito T, Toda H, Kurosawa M, Kubota K, Misumi T, Takahashi S, Nomura S, Shimizu K, Yoshino A, Tanigawa T; Fukushima NEWS Project Collaborators. Longitudinal Factors Associated With Increased Alcohol and Tobacco Use in Fukushima Nuclear Power Plant Workers 32 Months After the Nuclear Disaster: The Fukushima News Project Study. *J Occup Environ Med*. 2019 Jan;61(1):69-74. doi:10.1097/JOM.0000000000001483. PubMed PMID: 30335679.
  37. Nakanishi M\*, van der Steen JT. National dementia plans to address escalating global palliative care needs. *Palliative Medicine* 2020;34(7):966-967.
  38. Iguchi, A., Yoshii, A., Takita, M., Tsubokura, M., Fukahori, H., & Igarashi, R. (2020). Nurses' perceptions of medical procedures and nursing practices for older patients with non-cancer long-term illness and do-not-attempt-resuscitation orders: A vignette study. *Nurs Open*, 7(4), 1179-1186. doi:10.1002/nop2.495
  39. Hirooka, K., Nakanishi, M., Fukahori, H., & Nishida, A. (2020). Impact of dementia on quality of death among cancer patients: An observational

- study of home palliative care users. *Geriatr Gerontol Int*, 20(4), 354–359. doi:10.1111/ggi.13860
40. Kodama, Y., Fukahori, H., Tse, M., & Yamamoto-Mitani, N. (2020). Pain Prevalence, Pain Management, and the Need for Pain Education in Healthcare Undergraduates. *Pain Manag Nurs*. doi:10.1016/j.pmn.2020.09.008
  41. Nasu, K., Konno, R., & Fukahori, H. (2020). End-of-life nursing care practice in long-term care settings for older adults: A qualitative systematic review. *Int J Nurs Pract*, 26(2), e12771. doi:10.1111/ijn.12771
  42. Nasu, K., Sato, K., & Fukahori, H. (2020). Rebuilding and guiding a care community: A grounded theory of end-of-life nursing care practice in long-term care settings. *J Adv Nurs*, 76(4), 1009–1018. doi:10.1111/jan.14294
  43. Okumura-Hiroshige, A., Fukahori, H., Yoshioka, S., Nishiyama, M., Takamichi, K., & Kuwata, M. (2020). Effect of an end-of-life gerontological nursing education programme on the attitudes and knowledge of clinical nurses: A non-randomised controlled trial. *Int J Older People Nurs*, 15(3), e12309. doi:10.1111/opn.12309
  44. Takahashi, Z., Yamakawa, M., Nakanishi, M., Fukahori, H., Igarashi, N., Aoyama, M., . . . Miyashita, M. (2021). Defining a good death for people with dementia: A scoping review. *Jpn J Nurs Sci*, e12402. doi:10.1111/jjns.12402
  45. Nishikawa, Y., Fukahori, H., Mizuno, A., & Kwong, J. S.-W. (2021). Cochrane corner: advance care planning for adults with heart failure. *Heart*. 2021 Apr;107(8):609–611. doi: 10.1136/heartjnl-2020-318458.
  46. Nakazawa Y TE, Miyasita M, Sato K, Ogawa A, Kinoshita H, Kizawa Y, Morita T, Kato M. A Population-Based Mortality Follow-Back Survey Evaluating Good Death for Cancer and Noncancer Patients: A Randomized Feasibility Study. *Journal of Pain and Symptom Management*. 2021;61(1):42–53. e2.
  47. Nakazawa Y, Kato M, Miyashita M, Morita T, Ogawa A, Kizawa Y. Growth and Challenges in Hospital Palliative Cancer Care Services: An Analysis of Nationwide Surveys Over a Decade in Japan. *Journal of pain and symptom management*. 2021;61(6):1155–64.
  48. Maeda I, Inoue S, Uemura K, Tanimukai H, Hatano Y, Yokomichi N, Ogawa A, et al. Low-Dose Trazodone for Delirium in Patients with Cancer Who Received Specialist Palliative Care: A Multicenter Prospective Study. *Journal of Palliative Medicine*. 2021;24(6):914–8.
  49. Ando C, Kanno Y, Uchida O, Nashiki E, Kosuge N, Ogawa A. Pain management in community-dwelling older adults with moderate-to-severe dementia. *International journal of palliative nursing*. 2021;27(3):158–66.
  50. Kaibori M MH, Ishizaki M, Kosaka H, Matsui K. Ogawa A, Yoshii K, Sekimoto M. Perioperative Geriatric Assessment as A Predictor of Long-Term Hepatectomy Outcomes in Elderly Patients with Hepatocellular Carcinoma. *cancers*. 2021;13(4):842.
  51. Matsumoto Y US, Okizaki A, Fujisawa D, Kobayashi N, Tanaka Y, Sasaki C, Shimizu K, Ogawa A, Kinoshita H, Uchitomi Y, Yoshiuchi K, Matuyama Y, Morita T, Goto K, Ohe Y. . Early specialized palliative care for patients with metastatic lung cancer receiving chemotherapy: a feasibility study of a nurse-led screening-triggered programme. *Japanese journal of clinical oncology*. 2022. inpress.
  52. Kizawa Y, Yamaguchi T, Yagi Y, Miyashita M, Shima Y, Ogawa A. Conditions, possibility and priority for admission into inpatient hospice/palliative care units in



- Japan: a nationwide survey. Japanese journal of clinical oncology. 2021;51(9):1437-43.
53. Akechi T, Ito Y, Ogawa A, Kizawa Y. Essential competences for psychologists in palliative cancer care teams. Japanese journal of clinical oncology. 2021;51(10):1587-94.
  54. Kunii Y, Takahashi S, et al. Lessons learned from psychosocial support and mental health surveys during the 10 years since the Great East Japan Earthquake: Establishing evidence-based disaster psychiatry. Psychiatry Clin Neurosci. 2022 Feb 8. doi: 10.1111/pcn.13339.
  55. Takagi Y, Takahashi S, et al.: Acute-Stage Mental Health Symptoms by Natural Disaster Type: Consultations of Disaster Psychiatric Assistance Teams (DPATs) in Japan · Int J Environ Res Public Health. 2021, 18, 12409.
  56. Nakao T, Takahashi S, et al.: Mental Health Difficulties and Countermeasures during the Coronavirus Disease Pandemic in Japan: A Nationwide Questionnaire Survey of Mental Health and Psychiatric Institutions. International Journal of Environmental Research and public Health. 2021 Jul 8; 18(14):7318. doi: 10.3390/ijerph18147318.
  57. Midorikawa H, Takahashi S, et al.: Demographics associated with stress, severe mental distress, and anxiety symptoms during the COVID-19 pandemic in Japan: nationwide cross-sectional web-based survey. JMIR Public Health Surveill. 11(7), e29970, 2021.
  58. Fukui, S., Fukahori, H., et al. (2021). Provision and related factors of end-of-life care in elderly housing with care services in collaboration with home-visiting nurse agencies: a nationwide survey. BMC Palliat Care, 20(1), 151. <https://doi.org/10.1186/s12904-021-00847-7>
  59. Morita, K., Fukahori, H., et al. (2021). Outcomes of a financial incentive scheme for dementia care by dementia specialist teams in acute-care hospitals: A difference-in-differences analysis of a nationwide retrospective cohort study in Japan. Int J Geriatr Psychiatry, 36(9), 1386-1397. <https://doi.org/10.1002/gps.5537>
  60. Nasu, K., Fukahori, H., et al. (2021). Long-term care nurses' perceptions of a good death for people with dementia: A qualitative descriptive study. Int J Older People Nurs, e12443. <https://doi.org/10.1111/opn.12443>
  61. Nishikawa, Y., Fukahori, H., et al. (2021). Cochrane corner: advance care planning for adults with heart failure. Heart, 107(8), 609-611. <https://doi.org/10.1136/heartjnl-2020-318458>
  62. Shorey, S., Fukahori, H., et al. (2022). Salutogenesis and COVID-19 pandemic impacting nursing education across SEANERN affiliated universities: A multi-national study. Nurse Educ Today, 110, 105277. <https://doi.org/10.1016/j.nedt.2022.105277>
  63. Takahashi, Z., Fukahori, H., et al. (2021). Defining a good death for people with dementia: A scoping review. Jpn J Nurs Sci, 18(2), e12402. <https://doi.org/10.1111/jjns.12402>
  64. Yamagata, C., Fukahori, H., et al. (2021). Preliminary Effect and Acceptability of an Intervention to Improve End-of-Life Care in Long-Term-Care Facilities: A Feasibility Study. Healthcare (Basel), 9(9). <https://doi.org/10.3390/healthcare9091194>
  65. Yamakawa, M., Fukahori, H., et al. (2021). Sustainable nurse-led care for people with dementia including mild cognitive impairment and their family in an ambulatory care setting: A scoping review. Int J Nurs Pract, 36(1), 100-107. <https://doi.org/10.1016/j.ijnpr.2021.100107>

- e13008.  
<https://doi.org/10.1111/ijn.13008>
66. Yamamoto-Kon, A., Fukahori, H., et al. (2021). Validity and reliability of Japanese version of the pressure ulcer knowledge assessment tool. *J Tissue Viability*, 30(4), 566-570. <https://doi.org/10.1016/j.jtv.2021.08.002>
  67. Yoshinaga, N., Fukahori, H., et al. (2022). Initial impact of the COVID-19 pandemic on time Japanese nursing faculty devote to research: Cross-sectional survey. *Jpn J Nurs Sci*, 19(1), e12454. <https://doi.org/10.1111/jjns.12454>
- 論文発表 (日本語論文)
1. 小川朝生. 弁護士側証人が考える乳腺外科医裁判とせん妄. *診療研究*. 2019;549:19-26.
  2. 小川朝生. 抗うつ薬・抗精神病薬. *薬局*. 2019;70(6):67-72.
  3. 小川朝生. 精神症状を有する患者. *臨床泌尿器科増刊号 泌尿器科 周術期パーフェクト管理*. 2019;73(4):298-9.
  4. 小川朝生. いまはこうする!急性期・一般病院の認知症対応 特集にあたって. *月刊薬事*. 2019;61(3):25.
  5. 小川朝生. Patient Reported Outcome の臨床現場での取り組み. *MONTHLY ミクス* 2019;47(2):54-6.
  6. 小川朝生. 認知症対応の現状. *月刊薬事*. 2019;61(3):27-32.
  7. 岩田有正, 小川朝生. 頭頸部癌患者における認知症ケア. *ENTONI*. 2019;233(1346-2067):75-82.
  8. 小川朝生. 高齢者のがんと精神科急性期医療. *精神医学*. 2019;61(9):1049-56.
  9. 小川朝生. まなざしを知ること、生を学ぶこと. 明日への希望をつなぐがん治療情報. 2019;3:26.
  10. 小川朝生. 精神科医と心理士の違い. 緩和ケア. 2020;30(2):102-8.
  11. 小川朝生. 知っておきたい非がん患者の緩和ケア第6回認知症. *月刊薬事*. 2020;62(4):93-102.
  12. 小川朝生. 適切なアセスメントとケアで予防できる 医療者が知っておくべきせん妄への対応. *病院安全教育*. 2020;7(4):59-62.
  13. 小川朝生. 患者支援で知っておきたい眠りの話. *ホスピスケア*. 2019;30(2):36-66.
  14. 平井啓: 行動経済学の医療安全への応用(第1回)患者と医療者は見ている景色が違う. *Risk Management Times*, 55:6, 2019.
  15. 平井 啓: 医療へ貢献する心理学教育・研究の考え方. *学術の動向*, 24(5):52-57, 2019.
  16. 谷向 仁. 精神疾患の基礎知識③認知症. 緩和ケア 29 (4) :339-343, 2019.
  17. 谷向 仁. 向精神薬使用の適切な判断 認知症に対する抗精神病薬使用の適切な判断. *月刊薬事* 61 (3) 61-66, 2019.
  18. 谷向 仁. 認知症の怒りに対処する. *精神医学* 61 (11) 1297-1304, 2019.
  19. 上村恵一. 身体治療場面での認知症治療薬使用上の注意点. *月刊薬事* 61(3), 477-480, 2019
  20. 上村恵一. 症状別緩和ケアスキル Beyond PEACE せん妄. *Cancer Board Square* 5(1), 96-101, 2019.
  21. 高橋 晶: 認知症診療 Lewy 小体型認知症. *医学書院. 総合診療*. 2019. 29 (12) 1477-1481.
  22. 廣岡佳代, 中西三春, 深堀浩樹, 他. 認知症の有無ががん患者の看取りの質に与える影響. *Palliative Care Research*. 2019;14(Suppl.):S432.
  23. 渡会紘子, 深堀浩樹, 中西三春, 他. 認知症患者における Good Death の在り方に関する認知症患者、家族、医師、看護師、介護職に対するインタビュー調査の内容分析. *Palliative Care Research*. 2019;14(Suppl.):S433.
  24. 小川朝生. がん患者におけるせん妄ガイドライン 2019 年版. *精神医学*. 2020;62(5):692-7.
  25. 小川朝生. 患者さんの休息が障害されるときにはなにが起こっているのか〜その原因と症状マネジメント〜. *がん看護*. 2020;25(5):497-502.
  26. 小川朝生. がん薬物療法による認知機能障害と対策. *癌と化学療法*. 2020;47(6):905-12.
  27. 小川朝生. サイコオンコロジー分野の家族ケア. 緩和ケア. 2020;30Suppl:009-14.

28. 小川朝生. 精神科医と心理士の違い. 緩和ケア. 2020;30(2):102-8.
29. 小川朝生. 知っておきたい非がん患者の緩和ケア第6回認知症. 月刊 薬事. 2020;62(4):93-102.
30. 小川朝生. 適切なアセスメントとケアで予防できる 医療者が知っておくべき せん妄への対応. 病院安全教育. 2020;7(4):59-62.
31. 小川朝生. ACP とは何か 患者の意思の実現を考える本人目線での支援の取り組み. 最新医療経営 PHASE3. 2020;428(4):16-9.
32. 小林清香, 平井啓, 谷向仁, 小川朝生, 原田恵理, 藤野遼平, 立石清一郎, 足立浩祥. 身体疾患による休職体験者における職場ストレスと関連要因. 総合病院精神医学会. 2020;32(4):403-9.
33. 小川朝生. 非がん疾患に対する緩和ケア 疾患別の特性 認知症. 内科. 2021;127(2):245-9.
34. 小川朝生. せん妄と転倒. 日本転倒予防学会誌. 2021;7(3):19-21.
35. 小川朝生. せん妄対策の進歩. 老年内科. 2021;3(3):270-7.
36. 平井啓・山村麻予・鈴木那納実・小川朝生:高齢患者のがん治療方針における意思決定困難に関する要因に関する探索的研究—医師に対するインタビューから—, Palliative Care Research, 2021. 16(1), 27-34.
37. 高橋 晶: コロナが変える社会とこころ 総論 新型コロナウイルス感染症が社会に与える影響とストレス:こころの科学 (0912-0734)215号 Page16-23(2021. 01)
38. 玉野 雅裕, 加藤 士郎, 岡村 麻子, 星野 朝文, 高橋 晶, 小倉 絹子, 中村 優子 変動するアルツハイマー型認知症のBPSDに漢方薬が有効であった1症例:脳神経外科と漢方 (2189-5562)6 巻 Page33-38(2020. 09)
39. 高橋 晶:【大災害時に精神科医は何をしたらよいか】災害精神医学保健領域において、支援を活かすために必要なこと:精神科(1347-4790)37 巻 5号 Page503-510(2020. 11)
40. 高木 善史, 太刀川 弘和, 高橋 晶, 福生 泰久, 新井 哲明, 渡 路子:
41. 災害急性期に継続的な支援を要する精神障害の特徴 熊本地震における災害派遣精神医療チーム(DPAT)の活動データから:精神科救急(1345-7837)23 巻 Page68-76(2020. 09)
42. 高橋 晶:【うつ病と認知症】レビー小体型認知症の初期症状:Pharma Medica(0289-5803)38 巻 8号 Page29-33(2020. 08)
43. 重村 淳, 高橋 晶, 大江 美佐里, 黒澤 美枝:COVID-19(新型コロナウイルス感染症)が及ぼす心理社会的影響の理解に向けて:トラウマティック・ストレス(1348-0944)18 巻 1号 Page71-79(2020. 06)
44. 高橋 晶:新型コロナウイルスへの精神面の対応に向けて COVID-19 感染症に伴う精神, 心理, 公衆衛生・産業衛生的対応について:精神医学(0488-1281)62 巻 6号 Page897-910(2020. 06)
45. 高橋 晶:【災害の精神医学】災害とボランティア:最新精神医学(1342-4300)25 巻 1号 Page29-37(2020. 01)
46. 高橋 晶:【困っている“あなた”に届く認知症診療】認知症診療 case by case Lewy 小体型認知症:総合診療(2188-8051)29 巻 12号 Page1477-1481(2019. 12)
47. 玉野 雅裕, 加藤 士郎, 岡村 麻子, 星野 朝文, 高橋 晶:認知症に伴う諸症状の改善に漢方薬が奏効した1症例:脳神経外科と漢方(2189-5562)5 巻 Page29-33(2019. 10)
48. 高橋 晶:【災害被災地への長期支援〜その意義と課題】「水害の中長期復興」平成27年9月関東・東北豪雨から3年経過した常総市で起きていること・水害を含めた災害後の中長期の対応:精神科救急(1345-7837)22 巻 Page6-12(2019. 08)
49. 加藤 士郎, 玉野 雅裕, 岡村 麻子, 星野 朝文, 高橋 晶, 松崎 靖司:中高年女性 50 例の高血圧治療に併用して有効であった漢方薬の解析:漢方と最新治療 28 巻 1号 Page69-76(2019. 02)
50. 高橋 晶:【いまはこうする!急性期・一般病院の認知症対応】一般病院でのBPSDの予防と対応:薬事(0016-5980)61 巻 3号 Page459-464(2019. 02)
51. 福生 泰久, 太刀川 弘和, 高橋 晶, 高木 善史, 吉田 航, 小見 めぐみ, 新井 哲明, 渡 路子:平成28年(2016年)熊本地震におけるDPAT支援の概要 災害時精神保健医療情報支援システム(DMHISS)

- の集計データから：精神科救急(1345-7837)21 巻 Page86-94(2018.09)
52. 玉野 雅裕, 加藤 士郎, 岡村 麻子, 星野 朝文, 高橋 晶 :不眠、不安が顕著な認知症に加味帰脾湯が有効であった 1 例：脳神経外科と漢方(2189-5562)4 巻 Page28-33(2018.09)
  53. 玉野 雅裕, 加藤 士郎, 岡村 麻子, 星野 朝文, 高橋 晶 :認知症診療におけるQOL、生命予後改善を見据えた漢方治療の有効性：脳神経外科と漢方(2189-5562)3 巻 Page57-62(2017.09)
  54. 森陽子, 深堀浩樹, (2020). 訪問看護事業所による就業時の教育的支援への臨床経験を持つ新人訪問看護師の認識. 日本看護評価学会誌, 10(1), 31-39.
  55. 深堀浩樹 (2020). 【看護研究における報告ガイドライン 2】看護研究で念頭に置いておきたい報告ガイドライン ヘルスサービス研究における混合研究法による研究の質. 看護研究, 53(2), 118-120.
  56. 真志田祐理子, 大河原啓文, 深堀浩樹 (2020). 【看護研究における報告ガイドライン 2】看護研究で念頭に置いておきたい報告ガイドライン CONSORT-EHEALTH Web ベースおよびモバイル端末による保健介入の評価レポートの改善および標準化. 看護研究, 53(2), 144-145.
  57. 那須佳津美, 深堀浩樹 (2020). 【看護研究における報告ガイドライン 2】看護研究で念頭に置いておきたい報告ガイドライン ENTREQ 質的研究の統合の報告における透明性を高める ENTREQ 声明. 看護研究, 53(2), 98-99.
  58. 本田順子, 深堀浩樹. (2020). 【看護研究における報告ガイドライン 2】看護研究で念頭に置いておきたい報告ガイドライン 組織のケーススタディの方法論的フレームワークの開発 迅速レビューとコンセンサス形成プロセス. 看護研究, 53(2), 150-151.
  59. 友滝愛, 加藤尚子, 柏原康佑, 木戸芳史, 本田順子, 深堀浩樹. (2020). Explanation and elaboration paper(E&E) for the Guideline for Reporting Evidence-based practice Educational interventions and Teaching(GREET) 2016 概説:根拠に基づく実践の教育的介入と教育の報告ガイドライン(GREET)2016. 看護研究, 53(3), 222-227.
  60. 友滝愛, 加藤尚子, 柏原康佑, 木戸芳史, 本田順子, 深堀浩樹. (2020). 【看護研究における報告ガイドライン 2】看護研究で念頭に置いておきたい報告ガイドライン GREET 根拠に基づく実践の教育的介入と教育の報告ガイドライン(GREET). 看護研究, 53(2), 152-153.
  61. 廣岡佳代, 松本佐知子, 深堀浩樹. (2020). 【看護研究における報告ガイドライン 2】看護研究で念頭に置いておきたい報告ガイドライン StaRI 実装研究の報告基準に関する StaRI 声明. 看護研究, 53(2), 116-117 小川朝生. 認知症. 内科. 2021;127(2):245-9.
  62. 小川朝生. 精神的アプローチ. 消化器外科 2021年5月増刊号. 2021;44(6):1112-5.
  63. 小川朝生. コロナ禍の医療従事者のメンタルヘルス. 日本病院会雑誌. 2021;68(5):64-74.
  64. 小川朝生. 高齢がん患者の治療選択時の意思決定支援(医師の視点から). YORI-SOU が ん ナ ー シ ン グ . 2021;11(4):6-13.
  65. 小川朝生. せん妄と転倒. 日本転倒予防学会誌. 2021;7(3):19-21.
  66. 小川朝生. せん妄対策の進歩. 老年内科. 2021;3(3):270-7.
  67. 小川朝生. 非がん疾患に対する緩和ケア 疾患別の特性 認知症. 内科. 2021;127(2):245-9.
  68. 小川朝生. がん領域でのピアサポート:がんサバイバーとの関わり. 精神科. 2021;39(4):480-6.
  69. 小川朝生. AYA 世代のがん患者の家族への家族ケア外来. 日本医師会雑誌. 2021;150(9):1588.
  70. 小川朝生. 緩和ケアにおける精神科の役割. 老年精神医学雑誌. 2022;33(1):11-7.
  71. 小川朝生. 特集にあたって-はじめよう「せん妄」対応-. 薬局. 2022;73(2):10-1.
  72. 小川朝生. 閾値下せん妄. 精神科治療学. 2021;36(12):1417-21.
  73. 上村 恵一. 緩和ケアと COVID-19 感染症 臨床精神医学 50(8):839-848, 2021
  74. 上村 恵一. せん妄にトラゾドンやミア

- ンセリンがよい」は本当か？ 緩和ケア  
32(1):57-59, 2021
75. 井上 真一郎. 医療安全からみたせん妄  
対策 精神科治療学 36(12):1423-1430,  
2021
  76. 井上 真一郎. 緩和ケアにおけるせん妄  
臨床精神医学 50(8):829-837, 2021
  77. 井上真一郎 せん妄の診たてと対応  
レジデントノート 22(15):2840-2846,  
2021
  78. 井上真一郎, 他 病態に応じた周術期で  
の注意点 精神疾患 月刊薬事 63(3):  
183-190, 2021
  79. 井上真一郎 しくじりから学ぶ！精神  
科薬の使い方 CASE 1 不眠(せん妄ハイリ  
スクの場合) レジデントノート  
23(9):1456-1462, 2021
  80. 井上真一郎 しくじりから学ぶ！精神  
科薬の使い方 CASE2 不眠(せん妄発症リ  
スクが低い場合) レジデントノート  
23(10):1628-1633, 2021
  81. 井上真一郎 しくじりから学ぶ！精神  
科薬の使い方 CASE 3 せん妄(低活動型せ  
ん妄) レジデントノート 23(12):  
2015-2022, 2021
  82. 井上真一郎 しくじりから学ぶ！精神  
科薬の使い方 CASE 4 せん妄(過活動型せ  
ん妄) レジデントノート 23(13):  
2189-2197, 2021
  83. 井上真一郎 術後せん妄虎の巻【アセス  
メント力強化編】 オペナーシング  
36(1):54-58, 2021
  84. 井上真一郎 術後せん妄虎の巻【介入力  
強化編】 オペナーシング 36(2):177-  
181, 2021
  85. 美津島 大, 赤倉 功一郎, 谷向 仁, 佐  
藤 威文. アンドロゲン受容体阻害薬が  
認知機能に及ぼす影響: 血液脳関門透過  
性の臨床的意義  
泌尿器外科 34(8):977-983, 2021.
  86. 谷向 仁, 佐藤 威文, 美津島 大, 赤倉  
功一郎. 前立腺癌治療における認知機能  
マネジメントの重要性. 泌尿器外科  
34(9) 1071~1076 2021.
  87. 竹内麻理, 角甲純, 菅野雄介, 堂谷知香  
子, 谷向 仁. がん患者の終末期せん妄  
の特徴とは. エンド・オブ・ライフケア  
5(4):2-8, 2021.
  88. 貞廣良一, 平山貴敏, 和田佐保, 北浦祐  
一, 谷向 仁. 緩和ケア・エンドオブラ  
イフケアにおける最新のせん妄対策.  
精神科治療学 36(12):1411-1416,  
2021.
  89. 谷向 仁. 「不眠にベルソムラがよい」  
は本当か？緩和ケア 32(1):60-64.  
2022.
  90. 菅野 康二, 長谷川 貴昭, 稲田修士, 原  
島 沙季, 松田 能宣, 谷向 仁. がん治  
療におけるせん妄への対応. がんと化学  
療法 49(1):1-7, 2022.
  91. 谷向 仁. せん妄の定義・3 因子を知る.  
薬局 73(2), 12-16, 2022.
  92. 三村 将・高橋 晶. 他  
新型コロナウイルス感染症とこころのケ  
ア特集 国家的危機に際してメンタルヘ  
ルスを考える. 日本医師会雑誌 (0021-  
4493)150 巻 6 号 Page961-971(2021.09)
  93. 高橋 晶. 東京オリンピック、大阪万博  
を控えたこれから起こるかもしれない人  
為災害時における総合病院精神科の対応  
について  
総合病院精神医学 (0915-5872)33 巻 2 号  
Page159-169(2021.04)
  94. 高橋 晶. 災害後のメンタルヘルスと  
保健医療福祉連携: 医学のあゆみ  
(0039-2359)278 巻 2 号 Page143-  
148(2021.07)
  95. 高橋 晶. 【チーム医療と漢方】認知症  
ケアとチーム医療: 漢方と最新治療 30  
巻 2 号 Page71-77(2021.05)
  96. 高橋 晶. 【COVID-19 と老年医学】  
COVID-19 と心理・社会的影響:  
Geriatric Medicine (0387-1088)59 巻 5  
号 Page459-462(2021.05)
  97. 高橋 晶. 【差別・偏見からスタッフを  
守るために コロナ離職にどう向き合う  
か】災害対応の視点から考えるコロナ離  
職への向き合い方: Nursing BUSINESS  
(1881-5766)15 巻 6 号 Page514-  
517(2021.06)
  98. 高橋 晶. 【リエゾン精神医学における  
診立てと対応(2)】新型コロナウイルス感  
染症(COVID-19): 臨床精神医学 (0300-  
032X)50 巻 3 号 Page261-268(2021.03)
  99. 高橋 晶. Administration Psychiatry  
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に  
関するメンタルヘルス: 精神科臨床  
Legato (2189-4388)7 巻 1 号 Page64-  
66(2021.04)
  100. 中西三春. エビデンスに基づいた認知

- 症予防, ケア, 社会的包摂. 日本認知症ケア学会誌 19(4), 634-643, 2021.
101. 寺岡貴子, 深堀浩樹, 他. (2021). 日本の認知症高齢者を在宅介護する家族介護者の体験のメタ統合 [原著論文]. 日本精神保健看護学会誌, 30(2), 39-49. <http://search.jamas.or.jp/link/ui/VC07360005>
  102. 白川翔, 深堀浩樹, 他. (2021). 術前患者の不安軽減に関する質的研究を活用した教育的介入の影響 [原著論文]. 共済医報, 70(4), 349-354. <http://search.jamas.or.jp/link/ui/W111500008>
- 学会発表
1. 菅野雄介、榎戸正則、岩田有正、桑原芳子、前川智子、田中久美、木野美和子、内村泰子、小川朝生、認知症機能が低下した高齢がん患者の看護ケアに対する知識・自信尺度の開発と妥当性の検証. 第24回日本緩和医療学会学術大会（ポスター）；2019/6/21；パシフィコ横浜.
  2. 小川朝生、予防方略の実効性を高める発症予測：せん妄のリスク因子から. 第115回日本精神神経学会学術総会（シンポジウム）；2019/6/22；新潟市.
  3. 小川朝生、がんにおける意思決定支援. 第115回日本精神神経学会学術総会（シンポジウム）；2019/6/20；新潟市.
  4. 小川朝生、コンサルテーション活動を振り返る. 第24回日本緩和医療学会学術大会（シンポジウム）；2019/6/21；パシフィコ横浜.
  5. 小川朝生、サイコオンコロジー、アドバンス・ケア・プランニング. 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会（教育講演）；2019/7/18；国立京都国際会館.
  6. 榎戸正則、近藤享子、武井宣之、藤澤大介、小川朝生、新たに進行肺がんと診断された高齢がん患者の治療同意能力及びその関連因子の評価. 第24回日本緩和医療学会学術大会（ポスター）；2019/6/21；パシフィコ横浜.
  7. 關本翌子、小川朝生、前川智子、小林直子、葉清隆、武藤正美、坂本はと恵、遠矢和希、がん専門病院における倫理コンサルテーションチームの立ち上げ. 日本臨床倫理学会第7回年次大会（ポスター）；2019/3/30, 31；東京都医師会館（東京都千代田区）.
  8. 菅澤勝幸、白石あかり、國岡りんご、北澤和香奈、前川智子、小林直子、關本翌子、中島裕理、塚田祐一郎、小川朝生、坂本はと恵、遠矢和希、倫理コンサルテーションチームと協働の示唆. 日本臨床倫理学会第7回年次大会（ポスター）；2019/3/30, 31；東京都医師会館（東京都千代田区）.
  9. 松田能宣、前田一石、森田達也、所昭宏、岩瀬哲、小川朝生、吉内一浩. せん妄に対して薬物治療を受けたがん患者における主治医の予後予測とせん妄改善との関連の検討：Phase-R せん妄研究副次解析. 第32回日本サイコオンコロジー学会総会（ポスター）；2019/10/11；タワーホール船堀（江戸川区）.
  10. 小川朝生、65歳以上が3000万人を超える超高齢社会でがん患者にどのように対応するべきか？. 第30回日本医学会総会2019 中部（口演）；2019/4/29；名古屋国際会議場.
  11. 小川朝生、意思決定能力評価 最近の流れ. 第32回日本サイコオンコロジー学会総会（シンポジウム）；2019/10/11；タワーホール船堀（江戸川区）.
  12. 小川朝生、認知症の人の症状マネジメントと意思決定支援. 第43回日本死の臨床研究会年次大会（シンポジウム）；2019/11/3；神戸国際展示場.
  13. 奥山徹、吉内一浩、小川朝生、岩瀬哲、横道直佑、坂下明大、田上恵太、上村恵一、中原理佳、明智龍男、日常臨床で行われている進行がん患者の低活動型せん妄に対する薬物療法は有用でない. 第32回日本サイコオンコロジー学会総会（ポスター）；2019/10/11；タワーホール船堀（江戸川区）.
  14. 水野 篤、平井啓、佐々木周作、大竹文雄：乳がん検診受診行動におけるフレーミング効果の検討-インターネットランダム化比較試験の結果の考察. 行動経済学第13回大会, 2019. 11. 9 愛知
  15. 大塚 侑希、平井啓、福森 崇貴、八木麻美、上田豊、大竹文雄：若年女性における子宮頸がん検診受診の関連要因に関する検討. 第32回日本サイコオンコロジー学会総会, 2019. 10. 11 東京
  16. 平井啓、足立浩祥、原田恵理、藤野遼平、小林清香、谷向仁、立石清一郎：両

- 立支援において復職後のパフォーマンスに影響を与える要因について～抑うつ状態並びに脳疲労状態の観点から～. 第26回日本行動医学会学術総会, 2019. 12. 7 東京
17. 小林清香, 平井啓, 谷向 仁, 小川 朝生, 原田 恵理, 藤野 遼平, 立石 清一郎, 足立 浩祥: 身体疾患患者の復職における適応状態の特徴に関する研究: 脳疲労状態は身体疾患に伴う休職後の職場適応と関連する身体疾患治療からの復職後に生じる職場不適応に関する研究. 第32回総合病院精神医学会, 2019. 11. 15 岡山
  18. 平井啓: 医療現場の意思決定はなぜ不合理になるのか: 行動経済学から意思決定支援を考える. 第43回日本臨床研究会年次大会, 2019. 11. 4 兵庫
  19. 平井啓: 医療現場の行動経済学: 患者と医療者のすれ違いのサイエンス. 日本医療・病院管理学会. 日本医療・病院管理学会 (日本医学会分科会), 2019. 11. 3 新潟
  20. 平井啓: 行動経済学の観点からみた意思決定支援. 日本循環器看護学会, 2019. 11. 3 東京
  21. 平井啓: がん医療における行動経済学的意思決定支援の方法. NPO 婦人科腫瘍の緩和医療を考える会第8回総会・学術集会, 2019. 10. 12 兵庫
  22. 平井啓: 急性・慢性心不全診療における意思決定と行動変容-行動経済学的アプローチの可能性-. 第23回日本心不全学会学術集会, 2019. 10. 5 広島
  23. 平井啓, 原田恵理, 藤野遼平, 足立浩祥: 高ストレス状態の測定ツールとしての認知機能アセスメント尺度の開発. 日本心理学会第83回大会, 2019. 9. 13 大阪
  24. 山村麻予・平井啓・村中直人・上木誠吾・原田恵理・藤野遼平: 成人期における生活・業務の認知行動特性尺度の開発, 日本発達心理学会第31回大会, 2020. 3. 2. 大阪
  25. 谷向 仁. 認知症を併存するがん患者への対応. 第30回日本医学会総会, 2019. 4. 29.
  26. 谷向 仁. 一般病院における認知症併存者への対応の課題 ～透析医療での課題を含めて. 和歌山腎不全看護研究会, 2019. 5. 12.
  27. 榎戸 正則, 谷向 仁, 井上真一郎, 上村恵一, 植田 真司, 田中 久美, 木野美和子, 東谷敬介, 小川朝生. 一般病院における看護師を対象とした認知症対応の教育プログラムの効果検証. 第32回日本総合病院精神医学会総会. 2019. 11. 15.
  28. 上村恵一. がん罹患した精神疾患患者の治療選択について. 第32回日本総合病院精神医学会総会. 2019. 11. 15
  29. 菊地 未紗子, 上村恵一. 精神疾患のある患者に対する院内連携～精神科医の立場から～, 第22回日本腎不全看護学会学術集会シンポジウム. 2019. 11. 10.
  30. 小川朝生, 高齢者心不全における意思決定支援. 第24回日本心不全学会学術集会 (シンポジウム); 2020/10/15; Web開催.
  31. 小川朝生, せん妄への対応. 日本転倒予防学会第7回学術集会 (転倒予防指導士セミナー); 2020/10/10-25; Web開催.
  32. 谷向仁, 小川朝生, 急性期病院における認知症診療の課題 —実態調査から見えてきたこと—. 第116回日本精神神経学会学術総会 (シンポジウム); 2020/9/28-29; Web開催.
  33. 平井 啓 足立浩祥, 村中 直人, 小林 清香, 小川 朝生, 谷向 仁, 谷口 敏淳, 山村 麻予, 原田 恵理, 藤野 遼平, 堀井 健司, 桜井 なおみ, 立石 清一郎, 治療と職業生活の両立支援における高ストレス状態の測定ツールとしての脳疲労尺度の開発. 緩和・支持・こころのケア合同学術大会2020(ポスター); 2020/8/9、10; Web開催.
  34. 前川 智子 中村久実, 山中 圭子, 田村 貴恵, 服部 幸子, 石井 知子, 岩爪 美穂, 笠川 友恵, 幸喜 佐央里, 河嶋 夏来, 平野 勇太, 榎戸 正則, 岩田 有正, 小川 朝生, がん専門病院における高齢者総合的機能評価の傾向と今後の課題. 緩和・支持・こころのケア合同学術大会2020 (ポスター); 2020/8/9、10; Web開催.
  35. 平野勇太, 前川智子, 榎戸正則, 岩田有正, 栗山尚子, 菅澤勝幸, 關本翌子, 小川朝生, 〇 DELTA プログラムによる知識の獲得と行動変容に関する教育効果の検討. 緩和・支持・こころのケア合同学術大会2020 (ポスター); 2020/8/9、10;

- Web 開催。
36. 柘津晶子、岩田有正、平野勇太、萩原莉穂、榎戸正則、小川朝生，発達障害傾向のあるがん患者に対する子どもへのコミュニケーション支援における心理職の介入。緩和・支持・こころのケア合同学術大会 2020（ポスター）；2020/8/9、10；Web 開催。
  37. 岩田有正、榎戸正則、小川朝生，転移性脳腫瘍による症候性てんかんに対するレベチラセタム単剤投与の有効性と安全性に関する後ろ向き検討。緩和・支持・こころのケア合同学術大会 2020（ポスター）；2020/8/9、10；Web 開催。
  38. 小川朝生，わが国における非がん領域の緩和ケアの課題。緩和・支持・こころのケア合同学術大会 2020（国際シンポジウム）；2020/8/9、10；Web 開催。
  39. 小川朝生、天野慎介、藤井大輔、田中麻衣、阿萬和弘，ピアサポートの現状と実践に向けた取り組み。緩和・支持・こころのケア合同学術大会 2020（共催セミナー）；2020/8/9、10；Web 開催。
  40. 小川朝生，認知症の緩和ケア 急性期医療での現状と課題。緩和・支持・こころのケア合同学術大会 2020（シンポジウム）；2020/8/9、10；Web 開催。
  41. 小川朝生，高齢者のがん診療における支援。第 36 回日本ストレス学会総会；2020/10/24-25；Web 開催。
  42. 小川朝生，サイコオンコロジー・コアコンピテンシー作成の経験。第 33 回日本総合病院精神医学会総会（シンポジウム）2020/11/20。Web 開催。
  43. 中村菜々子，山村麻予，藤野遼平，平井啓，足立浩祥，本岡寛子，谷口敏淳，谷向仁：メンタルヘルス不調状態への受診勧奨メッセージの違いが受診意図に及ぼす影響～不調理由の説明とフレーミングの組み合わせの観点から～。第 27 回行動医学会学術総会 2020.12.12 オンライン
  44. 平井啓，足立浩祥，立石清一郎，谷向仁，小林清香，山村麻予：脳疲労尺度におけるプレゼンティズムと高ストレス状態の関連について～妥当性と利用方法の検討～。第 27 回行動医学会学術総会 2020.12.11 オンライン
  45. 平井啓：新型コロナウイルスに対する感染予防行動生起にあたる脅威性認知の影響について。日本社会心理学会第 61 回大会：2020.11.7-8 オンライン
  46. 山村麻予，平井啓，小川朝生，鈴木那納実：医療者を対象とした意思決定支援に関する教育プログラムの効果。日本教育心理学会第 62 回総会，2020 .9.19-21 オンライン
  47. 管生 聖子，平井啓：母親の子育不適応予測のための包括的な心理社会的要因構造化の試み。日本心理学会第 84 回，2020.9.8-10。オンライン
  48. 平井啓，山村 麻予，藤野 遼平，中村 菜々子，本岡 寛子，足立 浩祥，谷口 敏，谷向仁：メンタルヘルス受診意思決定モデルの行動経済学的検討。日本心理学会第 84 回，2020.9.8-10。オンライン
  49. 平井啓，小林清香，桜井なおみ，浅野健一郎，上木誠吾，藤野遼平，堀井健司，原田恵理，足立浩祥，立石清一郎：治療と職業生活の両立におけるストレス構造分析—企業支援者インタビュー調査—。緩和・支持・心のケア学術大会 2020 2020.8.9-10。オンライン
  50. 平井啓，足立浩祥，村中直人，小林清香，小川朝生，谷向仁，谷口敏淳，山村麻予，原田恵理，藤野遼平，堀井健司，桜井なおみ，立石清一郎：治療と職業生活の両立支援における高ストレス状態の測定ツールとしての脳疲労尺度の開発。緩和・支持・心のケア学術大会 2020 2020.8.9-10。オンライン
  51. 小林清香，平井啓，立石清一郎，桜井なおみ，足立浩祥，谷口敏淳，原田恵理：治療と職業生活の両立におけるストレス構造分析—支援者インタビュー調査—。緩和・支持・心のケア学術大会 2020 2020.8.9-10。オンライン
  52. 桜井なおみ，平井啓，原田恵理：働くがん患者の心と身体の変化に関する研究。緩和・支持・心のケア学術大会 2020 2020.8.9-10。オンライン
  53. 高橋晶：特別講演 新型コロナウイルスへの精神的対応、今まで、そして、これから起こること～感染症と災害精神医学～。第 1 回 DPAT Area Meeting。2021 年 3 月 5 日。Web 開催
  54. 高橋晶：シンポジウム COVID-19 流行下の社会変化と精神保健医療の対応。COVID-19 に伴う精神医療の現場で起き



- ている課題と支援者支援。一般社団法人日本社会精神医学会・Meiji Seika フェルマ株式会社 共催 多職種のための精神医学セミナー。Web 開催。 2021年1月23日
55. 高橋 晶： シンポジウム COVID-19 から我々が学んだこと。COVID-19 の前と後、感染症が及ぼす社会、精神面への変化について。総合精神病院医学会。 2020年11月20日 Web 開催
  56. 高橋 晶： シンポジウム 新型コロナウイルス感染症の世界的大流行や人為災害への精神的な支援とその課題。 総合精神病院医学会。 2020年11月20日。 Web 開催
  57. 高橋 晶： シンポジウム 2019年台風15号、19号における水害支援 茨城県の対応と課題、他県支援と自県支援について。 総合精神病院医学会。 2020年11月20日。 Web 開催
  58. 高橋 晶， 太刀川弘和 シンポジウム 災害時の精神保健医療福祉活動マニュアル試案について 第79回日本公衆衛生学会総会 Web 開催 2020年10月20日-22日
  59. 高橋 晶： シンポジウム自然災害への備えと対応～BCPと受援・支援～。 局地～広域の自然災害への精神支援体制の現状と展望。日本精神神経学会。 Web 開催。 2020年9月28日～30日
  60. 高橋 晶： シンポジウム COVID-19 (新型コロナウイルス感染症) がもたらす精神医療保健福祉への影響を考える。 COVID-19 に伴う精神医療の現場で起きている課題と支援者支援。 日本精神神経学会。 Web 開催。 2020年9月28日～30日
  61. 高橋 晶： シンポジウム 人為災害における精神保健医療上の課題：東京オリンピック・パラリンピックに向けて。 東京オリンピックを控えて、精神科に求められる事。 日本精神神経学会 Web 開催。 2020年9月28日～30日
  62. 高橋 晶： 指定発言 災害時・後の多職種連携教育の例。 シンポジウム 災害時の多職種連携とこころのトラウマ対応。 第19回日本トラウマティックストレス学会。 Web 開催 2020年9月21日。
  63. 高橋 晶： 災害領域におけるトラウマ関連疾患のアセスメント。 シンポジウム 現場での実践を目指したトラウマ関連疾患のアセスメント。 第19回日本トラウマティックストレス学会。 Web 開催。 2020年9月21日
  64. van der Steen JT\*, Azizi B, Nakanishi M, Shinan-Altman S, Mehr DR, Radbruch L, Gaertner J, Werner P, Achterberg WP, Tilburgs B, Smaling HJA. OD04-01-05 - Cross-cultural acceptability of interventions at the end of life in dementia: video vignette study design and pilot evaluation (ERC CONT-END WP1). Alzheimer's Association International Conference 2020 (2020.07.30, the Netherlands)
  65. 村上寿子, 皆吉泰知, 田村貴子, 廣山奈津子, 深堀浩樹。 (2020)。 HCUにおける患者が不快に感じる「音」の内容調査。 共済医報, 69(Suppl.), 59.
  66. 白川翔, 菅野貴仁, 矢口秀穂, 塚田真由美, 廣山奈津子, 深堀浩樹。 (2020)。 術前患者の不安軽減に関する質的研究を活用した教育的介入の影響。 共済医報, 69(Suppl.), 60.
  67. 野中瑞穂, 青山真帆, 中西三春, 山川みやえ, 深堀浩樹, 佐藤一樹, 高橋在也, 長江弘子, 森田達也, 坂井志麻, 宮下光令。 (2020)。 認知症の Good Death とは何か? 遺族・医師・看護師・介護職の認識に関する Web 調査。 Palliative Care Research, 15(Suppl.), S208.
  68. 小川朝生, 認知症を有する治療期にあるがん患者へのケアと意思決定支援～どのようにチームで連携をとり援助につながるか～。 第35回日本がん看護学会学術集会(パネルディスカッション); 2021/2/27～4/30。 Web 開催。
  69. 小川朝生, せん妄の諸々の問題をいかに整理するか。 第26回日本緩和医療学会学術集会(シンポジウム); 2021/6/18・19; Web 開催。
  70. Youngmee Kim DK, Asao Ogawa, Gil Goldzweig, Cancer diagnosis at old age: Quality of life, social support and loneliness among caregivers and patients. The 22nd World Congress of Psycho-Oncology & Psychosocial Academy (シンポジウム); 2021/5/26-29; Web 開催。
  71. 小川朝生, 高齢者のがん治療を安全・効

- 果的に遂行するための取り組み. 第 18 回日本臨床腫瘍学会学術集会 (シンポジウム); 2021 2/18; Web 開催.
72. 小川朝生, 進行がん患者の難治性せん妄をどうマネジメントするか?. 第 18 回日本臨床腫瘍学会学術集会 (シンポジウム); 2021 2/19; Web 開催.
73. 小川朝生, がん患者の睡眠障害. 第 28 回日本行動医学会学術総会; 2021 ライブ配信 11/28、オンデマンド配信 11/29-1/14; Web 開催.
74. 小川朝生, がん診療連携拠点病院における心理社会的支援の充実-がんサポートプログラム (サポートグループとピアサポート) の均てん化をめざして- (特別企画、指定発言). 第 3 4 回日本サイコオンコロジー学会総会; 2021 9 月 18 日 ~ 12 月 31 日 (オンデマンド配信); Web 開催.
75. 小川朝生, 入門編 サイコオンコロジー・ACP (Advanced Care Planning). 第 19 回日本臨床腫瘍学会学術集会 (教育講演); 2022 2 月 17 日; 国立京都国際会館.
76. 平井啓・志水佑后・上田豊・八木麻未・大竹文雄: 新型コロナウイルス感染症の脅威による HPV ワクチンへのリスク認知への影響. 行動経済学会第 15 回大会, 2021. 12. 11-12.
77. 平井啓・金子茉央: 働く身体疾患患者への心理教育的介入の介入プロセスに関する探索的研究~疲労体験とストレスマネジメントに着目して~. 第 28 回日本行動医学会学術総会, 2021. 11. 27-28. オンライン
78. 平井啓, 三浦健人, 杉山幹夫, 工藤昌史: ヘルシーリテラシーと機能性食品利用意向の関連性. 日本健康心理学会, 2021. 11. 15-21. オンライン
79. 加藤舞, 平井啓, 山村麻予, 三浦麻子: 新型コロナウイルス感染症のヘルスリテラシーと心身の健康および生活への影響との関連. 日本健康心理学会第 34 回大会, 2021. 11. 15-21. オンライン
80. 平井啓, 小林清香, 金子茉央: 働く身体疾患患者に対する心理教育的介入効果検証. サイコオンコロジー学会, 2021. 9. 18-19. オンライン
81. 藤野遼平, 山村麻予, 足立浩祥, 中村菜々子, 本岡寛子, 谷口敏淳, 谷向仁, 平井啓: メンタルヘルス受診へと至る受診準備行動への影響因の検討. 日本心理学会, 2021. 9. 1-8. オンライン
82. 平井啓, 山村麻予, 加藤舞, 三浦麻子: 新型コロナウイルス感染症のヘルスリテラシーの違いによる対象者セグメンテーション. 日本社会心理学会, 2021. 8. 26-27. オンライン
83. 山村麻予, 平井啓, 小川朝生: 医療従事者を対象とした意思決定支援に関する研修の効果オンライン会議システムを用いたプログラムの実施. 教育心理学会, 2021. 8. 21-30. オンライン
84. 上村恵一. がん患者のせん妄ハイリスクを考慮した睡眠障害への対応 第 22 回国際サイコオンコロジー学会学術大会, WEB, 2021. 5. 29
85. 上村恵一. 緩和ケア医が知っておきたい漢方薬~フレイルと認知症に着目して~ 第 26 回日本緩和医療学会学術大会, WEB, 2021. 6. 19
86. 上村恵一. 守れ! 新型コロナウイルス感染患者と対応に従事する医療者のメンタルヘルス, 第 23 回日本救急看護学会学術集会, WEB, 2021. 10. 23
87. 井上真一郎 せん妄に対する適切な薬剤選択と効果的な頓服使用について 第 5 回日本老年薬学会学術大会, 2021. 5.
88. 井上真一郎 すぐに使える! 薬剤師が知っておきたい せん妄の実践的知識 第 14 回日本緩和医療薬学会年会, 2021. 5.
89. 井上真一郎 急性期病院におけるせん妄ハイリスク患者ケア加算の運用のノウハウ~大学病院の立場から~ 第 117 回日本精神神経学会学術総会, 2021. 9.
90. 井上真一郎 がん患者のせん妄に対するマネジメント 第 117 回日本精神神経学会学術総会, 2021. 9.
91. 井上真一郎 せん妄の治療薬と予防的な薬剤 第 63 回日本老年医学会学術集会, 2021. 6.
92. 井上真一郎 ガイドラインに基づくせん妄への標準的な対応を学ぶ 第 26 回日本緩和医療学会学術大会, 2021. 6.
93. 井上真一郎 今、本当にサイコオンコロジー・緩和ケアの臨床現場で求められるもの 精神科医の立場から 第 62 回日

- 本心身医学会総会ならびに学術講演会,  
2021. 8.
94. 井上真一郎 若手精神科医のリクルー  
トや研修・教育の取り組みについて 第  
34 回日本総合病院精神医学会総会,  
2021. 11.
95. 井上真一郎 せん妄の早期発見のコツ  
と可逆性・不可逆性せん妄に対する家族  
へのアプローチについて 日本緩和医療  
学会第 3 回関西支部学術大会, 2021. 11.
96. 谷向 仁. せん妄の薬物療法の限界と  
予防の重要性 Overview. 第 117 回日本  
精神神経学会学術総会(京都、  
WEB)2021. 9. 20.
97. 谷向 仁. がん医療における認知機能  
障害 ～化学療法、ホルモン療法によ  
る影響を中心に～. 第 117 回日本精神神  
経学会学術総会(京都、WEB)2021. 9. 21.
98. 谷向 仁. 心理的側面を考える前に行  
うべきこと～がん医療における認知機能  
障害～. 日本心理学会公開シンポジウム  
(WEB)2021. 12. 5.
99. 谷向 仁. 精神科医からみた BPSD 対  
応：怒りに焦点を当てて. 第 32 回 サイ  
コネフロロジー学会. 2021. 12. 12.
100. 高橋 晶 :  
『災害後のメンタルヘルス』～認知症に  
かかわる全ての人へ～  
認知症に関する介護保険研修会/2021-  
05-15--2021-05-15
101. Nakanishi M. Change in care location  
of older adults who resided in group  
homes in Japan: An observational  
study using long-term care insurance  
comprehensive database. Alzheimer's  
Association International Conference  
2021 (2021.07.26-30, virtual)
102. 青山真帆, 深堀浩樹., 他. (2021). 認  
知症患者の遺族の死別後のうつ・複雑性  
悲嘆と関連要因 [会議録]. Palliative  
Care Research, 16(Suppl.), S396.  
<http://search.jamas.or.jp/link/ui/2021263980>
103. 長尾祥子., & 深堀浩樹 . (2021). 一施  
設における看護師の自己教育力と役割、  
院内研修受講の有無との関連 [会議録].  
共 済 医 報 , 70(Suppl.), 59.  
<http://search.jamas.or.jp/link/ui/2022065488>
104. 那須佳津美., 深堀浩樹 ., 他. (2021).

認知症の人の死亡前 1 か月の救急搬送と  
救急受診の要因：遺族への Web 調査の二  
次解析., [学会発表] 日本家族看護学  
会第 28 回学術集会.

## H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得  
なし。
2. 実用新案登録  
なし。
3. その他  
特記すべきことなし。

